

# 気候変動がもたらす豪雨災害と「川辺川ダム-河川法」の問題

## ◆ 川辺川ダム問題70年の歴史が「川辺川ダム-河川法」の根本問題を暴く ◆

あらゆる治水対策が施工された球磨村渡地区 一番激甚な災害に遭遇  
基本高水治水の根本的な矛盾が露呈した災害



防災意識は最良の教科書

渡地区で発生した災害  
が教えてくれたこと

日本の河川法は  
川の開発を目的にした  
ものでしかないこと

清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会

報告者 黒田 弘行

# 序章 日本の河川法は川をどのように扱っているか

私たちは『ダムによる治水かダムによらない治水か』に関する議論をしているのではなく、河川法の下に実施されている基本高水治水(流域治水)が川と流域に何をもたらしているかを追求し、この取り組みの中でダム問題も最も重要な課題として議論をしている

白川が最初に導入された川

近代河川工学の始り

明治の河川法 **計画高水治水**



昭和と平成の河川法 **基本高水治水**

堤防を築いて洪水を川に閉じ込める  
堤防を築くための洪水が計画高水

人吉地点  
4000m<sup>3</sup>/s

計画高水治水にダム治水を加えた治水  
ダムを建設する為に必要な洪水が基本高水

## 河川法 目的 第一条

この法律は河川について洪水、津波、高潮等による災害が防止され、河川が適正に利用され、流水の正常な機能が維持され及び河川環境の整備と保全がされるようにこれを総合的に管理する

河川法施行令 河川整備基本方針に定める事項 第十条の二

(イ) 基本高水(洪水防御に関する計画の基本となる洪水をいう)並びにその河道及び洪水調節ダムへの配分に関する事項

昭和の河川法が球磨川に持ち込まれると



球磨川は暮らしの中にあつた



河川法の下、球磨川は暮らしから消えた

# 日本の河川法には川がない

治水・利水・環境のために川を開発することを目的とする河川法

**自然の営みとして存在している川の保全こそ最も重要な課題である**

自然の営みとして存在している川は複雑系の自然

- ▶ 川は大地を削り、大地をつくる自然として存在  
山も谷も扇状地も氾濫原も湿地帯も川がつくりだした川の領域  
川は水圏の一形態に過ぎないが大きな働きをする自然
- ▶ 川は生態系として、生態系の構成要素として存在



アフリカウシガエル→ハンマーコップ→クロコダイル

アフリカウシガエルも  
ハンマーコップも  
クロコダイルも含めて  
マラ川である

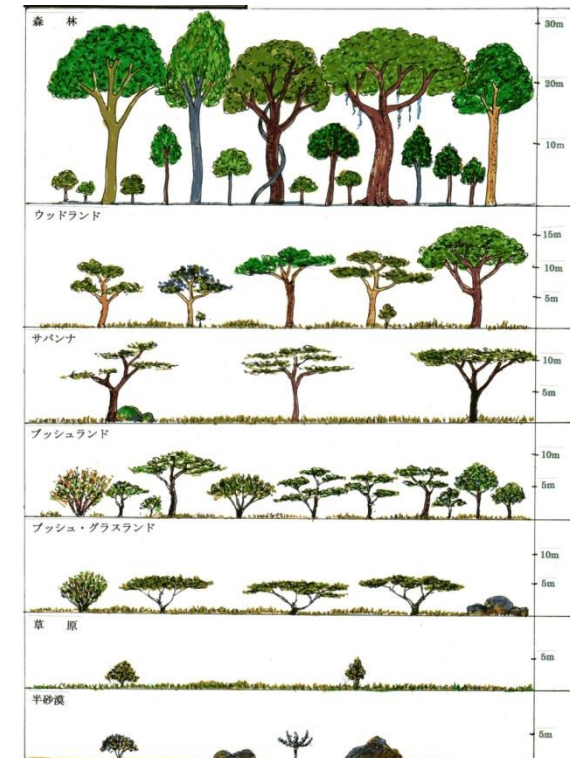
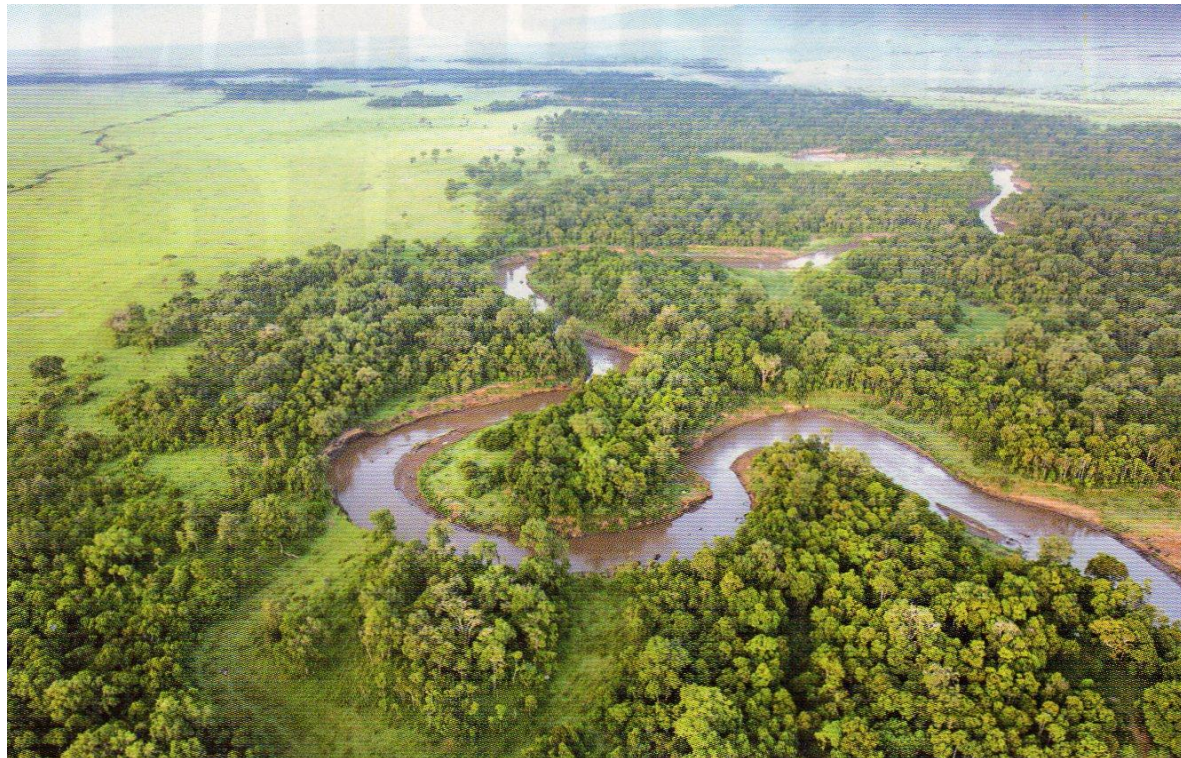
河川法で破壊  
された球磨川



アユがいて球磨川

# 森と川 一番大切なことは 雨・大地・森・川は一つの自然

年間1000ミリ以上の雨が降るところの大地が森と川を育てている  
雨量の大きさによって大地は多様な植物の世界をつくりだしている



マサイマラ動物保護区は野生の王国と呼ばれていた。この野生の王国を支えているのはマラリバーである。マラリバーはマオフォレストから流れ出している。このマラ川は草原に森をつくっている。リバーフォレストと呼ばれている。森は生態系としての川を育む。川と森は仲良しなのだ。

# 第一章 川辺川ダムの始まりは大型発電ダムであった ～ 五木村と人吉市で起きたダム反対運動と相良村で起きた利水ダム要求運動 ～

昭和25年 熊本県が九つの発電ダムで球磨川流域総合開発を計画



撤去中の荒瀬ダム



実現しなかった神瀬ダム



瀬戸石ダム



市房ダム

幻と消えた  
発電用の  
相良ダム

**憧れの大きな相良ダムが  
幻となって消えたのは**

なぜ、川辺川ダムは相良村藤田なのか  
電源開発が2億円かけて選んだ所  
川辺川ダム問題はここから始まる



# 川辺川ダムをめぐる裏話 川辺川ダム反対運動の始まり

発電ダムは大きいほど良い V字谷溪谷を形成している川辺川は最適の川

電源開発は相良村藤田に発電用の相良ダムを計画

現在の川辺川ダム建設予定地

五木村は猛反対

電源開発は石油による火力発電に切り替え、

相良ダム計画は建設省へ⇔公共事業登場

相良村が高原台地への利水ダムを県に要望

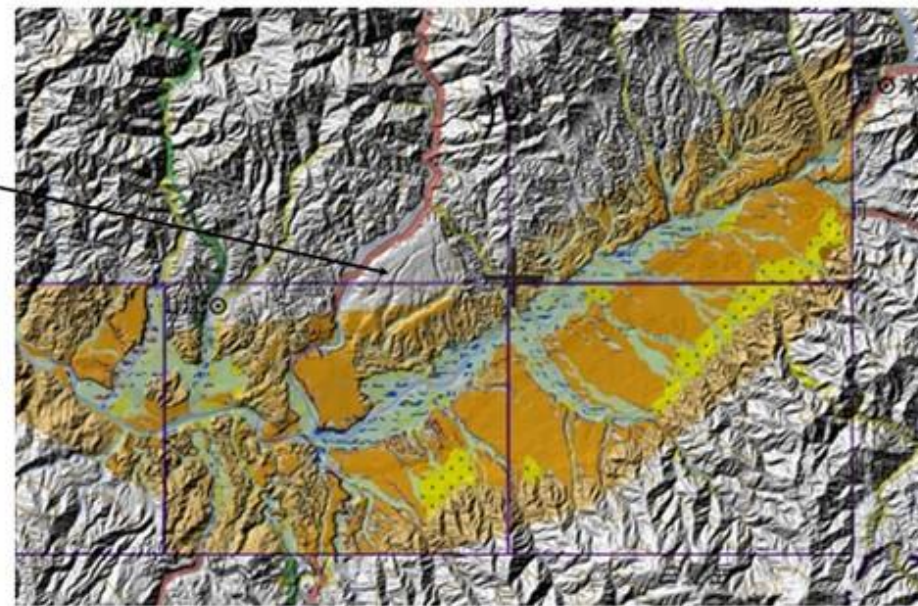
予算のない県は国に要望

建設省は予算が取りやすくなる大きな災害を待つ

昭和40年人吉大水害発生

昭和41年多目的の川辺川ダム計画を発表

球磨盆地 北部の台地は火砕流台地 高原台地は扇状地



高原(たかんばん)台地

球磨盆地 南部の台地は山地から流れ出す各支流が作りだした扇状地

# 流域住民による川辺川ダム反対の原風景をつくりだした三つのダム



水害常襲地帯になった



球磨川は川でなくなった



球磨川が暮らしから奪われた

清流球磨川・川辺川を未来に手渡す会 ⇨清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会  
川辺川利水を考える会 子守唄の里五木を育む清流川辺川をも守る県民の会・東京の会  
球磨川水害体験者の会 川辺川・球磨川を守る漁民有志の会 美しい球磨川を守る市民の会  
等々 球磨川・川辺川と暮らしを守る様々な住民運動が発展していった

## 第二章 球磨川水系の流域で発生した災害を無視した 多目的の川辺川ダム計画

計画の規模 1 / 80で九州一大きな多目的ダム計画は  
農民だまして利水裁判を呼び込んだ



川辺川ダムで  
最初に騒ぎ  
出したのは  
多良木町の農民  
であった



# 大型川辺川ダム建設のために雨量も洪水の流量も捏造

昭和41年に策定された川辺川ダムは球磨川流域にどんな雨を降らせ、藤田地点や市房地点にどんな洪水を発生させて計画されたのでしょうか



この捏造を暴くことが出来たのは2020年7月4日の豪雨であった

捏造とだましから始まった川辺川ダム

# 川辺川ダムの大きな特徴であるイカさまダムの始まり

多目的ダムとしての川辺川ダムと基本高水治水としての川辺川ダムの矛盾

基本高水治水としてのダムの大きさを決めるのは基本高水



基本高水は計画の規模の決定から始まる



計画の規模は

河川の重要度を重視するとともに既往洪水による被害の実態  
経済効果等を総合的に考慮して定めることを基本とする

## 河川法施行令

基本高水とは洪水防御に関する計画の基本となる洪水をいう

当時の一級河川は 1/150 1/100 1/80(4河川のみ)

現在の一級河川は 1/200 1/150 1/100 **1/80のところもある**

**川辺川ダムは1/80で九州で一番大きい多目的ダム**

# 川辺川ダム問題を暴きがした

## 住民討論集会

## 森林の保水力に関する共同検証

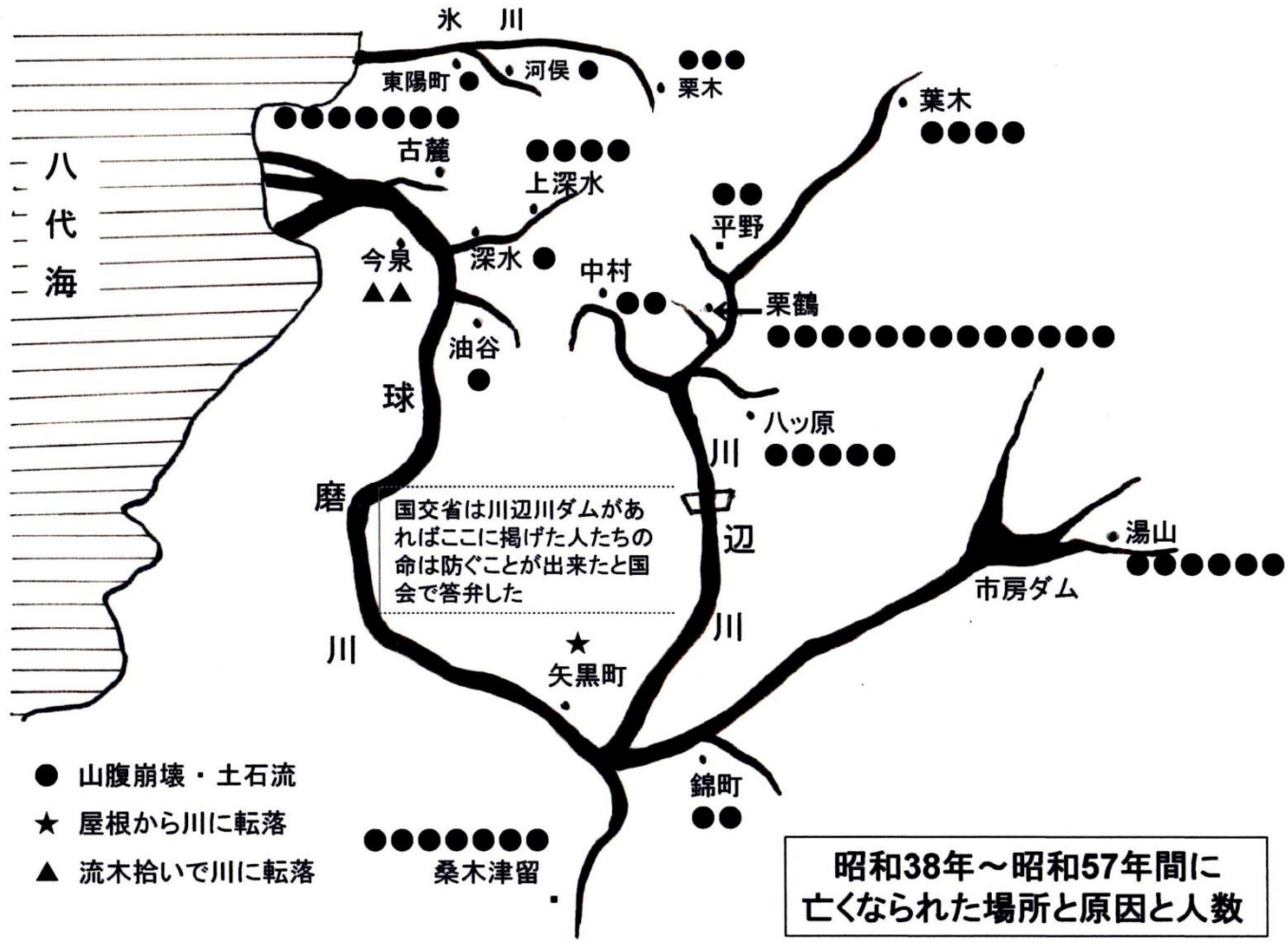
住民が基本高水治水に関する議論を始めた

### ウソとゴマガシの国交省

国交大臣が国会の場で大ウソで川辺川ダムを正当化したことを紹介



# 川辺川ダムは流域の内外で発生した山地崩壊による死者でしか 正当化することが出来ないダムである



この話は  
住民討論集会  
開催中に  
国交大臣が  
国会で話した  
ものである

2012年の球磨川  
流域豪雨災害の時  
川辺川ダム(基本高  
水治水)の根本問題  
が解明出来た

昭和の  
河川法  
から  
平成の  
河川法  
へ  
切替えた



**土地と漁業権二つの収用委員会  
川辺川ダム事業認定白紙撤回**

**球磨川水系河川整備基本方針策定  
徳田・田中・蒲島 川辺川ダム反対表明**

**ダムによらない治水を検討する場**

**国交省：今後の治水対策**

**球磨川治水対策協議会**

**2020年球磨川流域豪雨災害**

**2021年球磨川河川整備計画**

10年間  
災害を  
待ち続  
けた  
期間

# 第三章 基本高水治水と気候変動による豪雨災害

～ 川辺川ダム建設計画の根本的な問題点を

2020年球磨川流域豪雨災害が暴いてくれた～

2020年7月4日未明 球磨川流域に降った集中豪雨

市町村	河川	観測所	1時	2時	3時	4時	5時	6時	7時	8時	9時	9時間雨量
八代市	百済来川	①川岳	10	19	55	72	34	58	40	13	3	304
芦北町	天月川	②大野	34	54	38	48	79	32	63	45	8	401
球磨村	川内川	③神瀬	29	51	59	78	72	62	73	35	6	465
	芋川	④岳本	27	52	40	31	74	11	42	44	16	337
	那良川	⑤三ヶ浦	23	64	37	22	51	7	26	60	24	314
	鶴川	⑥球磨	27	58	40	21	68	8	31	47	14	314
	小川	⑦大槻	29	39	65	74	73	52	67	30	5	434
山江村	万江川	⑧大川内	21	36	62	65	61	66	59	19	8	397
人吉市	胸川	⑨砂防人吉	24	61	15	3	34	26	42	100	62	367
	鳩胸川	⑩大畑	33	26	21	13	32	25	14	77	59	300
相良村	川辺川	⑪相良	25	64	18	6	29	17	24	66	39	288
		⑫四浦	30	43	56	32	72	21	35	37	16	342
五木村	小鶴川	⑬平沢津	2	18	30	61	24	31	28	8	8	210
	五木小川	⑭出る羽	5	27	48	77	35	49	39	9	6	295
	川辺川	⑮五木宮園	2	33	38	62	42	45	44	9	9	284
	梶原川	⑯梶原	4	33	52	80	59	43	41	10	12	334
八代市	川辺川	⑰開持	1	24	27	44	28	24	34	6	11	199
あさぎり町	田頭川	⑱深田	26	74	27	13	40	24	44	54	36	338
	阿蘇川	⑲須恵	27	51	42	22	56	12	22	50	17	299
多良木町	球磨川	⑳多良木	24	71	33	21	55	28	57	58	31	378
	柳橋川	㉑城山	19	62	26	6	36	35	45	54	44	327
	小椎川	㉒黒肥地	21	44	48	28	45	18	26	41	19	290
湯前町	仁原川	㉓湯前	23	71	36	23	48	31	56	51	30	369

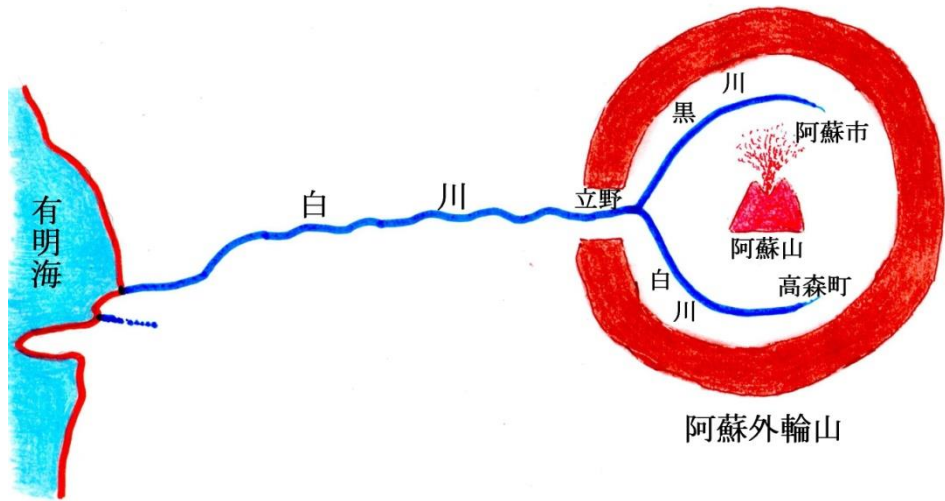
九州では  
2012年と2017年  
の九州北部豪雨に続  
き、気候変動による  
集中豪雨が球磨川流  
域にも降った

# 気候変動による2012年・2017年九州北部豪雨災害の特長

## 局所集中豪雨と激甚な災害

九州北部豪雨の降り方 阿蘇は1時～8時 朝倉は13時～20時 時間雨量

2012年	阿蘇 坊中	8	32	93	89	102	124	39	13
2017年	朝倉 黒川北小路	62	93	124	114	39	97	68	90



白川は基本高水治水の導入が最初に計画された川

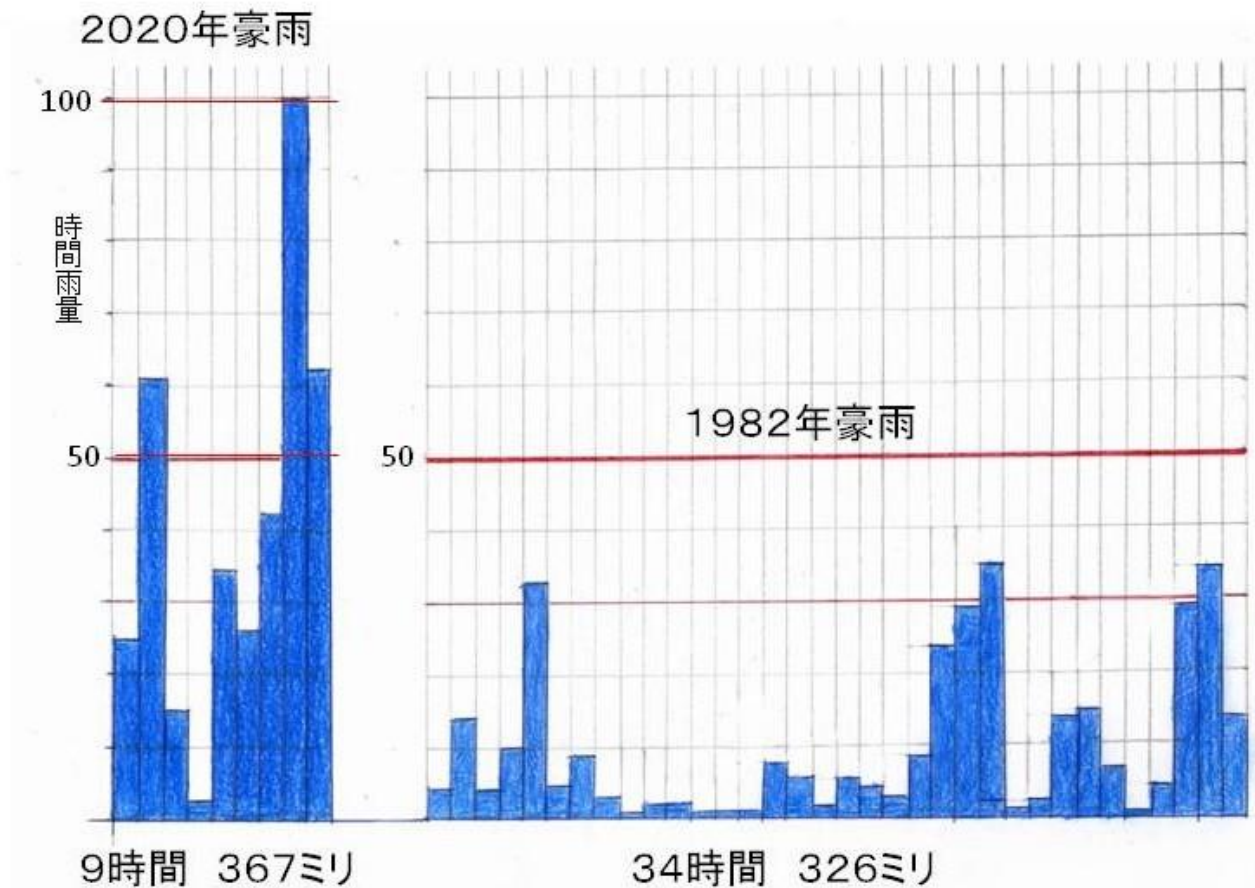


豪雨の降ったところで  
即激甚な災害が発生  
これが局所集中豪雨が  
もたらす主要な災害

基本高水治水・流域治水モデル



# 温暖化に伴う気候変動がもたらす豪雨の特長を球磨川流域の豪雨で検証



温暖化に伴い  
雨の降り方が大きく変わりました

	1972年 昭和47年
多良木	48時間で338ミリの雨
五木	48時間で268ミリの雨

短時間に強烈な  
雨が降るようになった



雨量は  
1,1倍増えた

	2020年 令和2年
多良木	9時間に378ミリの雨
五木	9時間に284ミリの雨



# 基本高水治水では命は守れない

球磨川流域における気候変動がもたらす  
局所集中豪雨は中流域に  
川辺川流域ではない

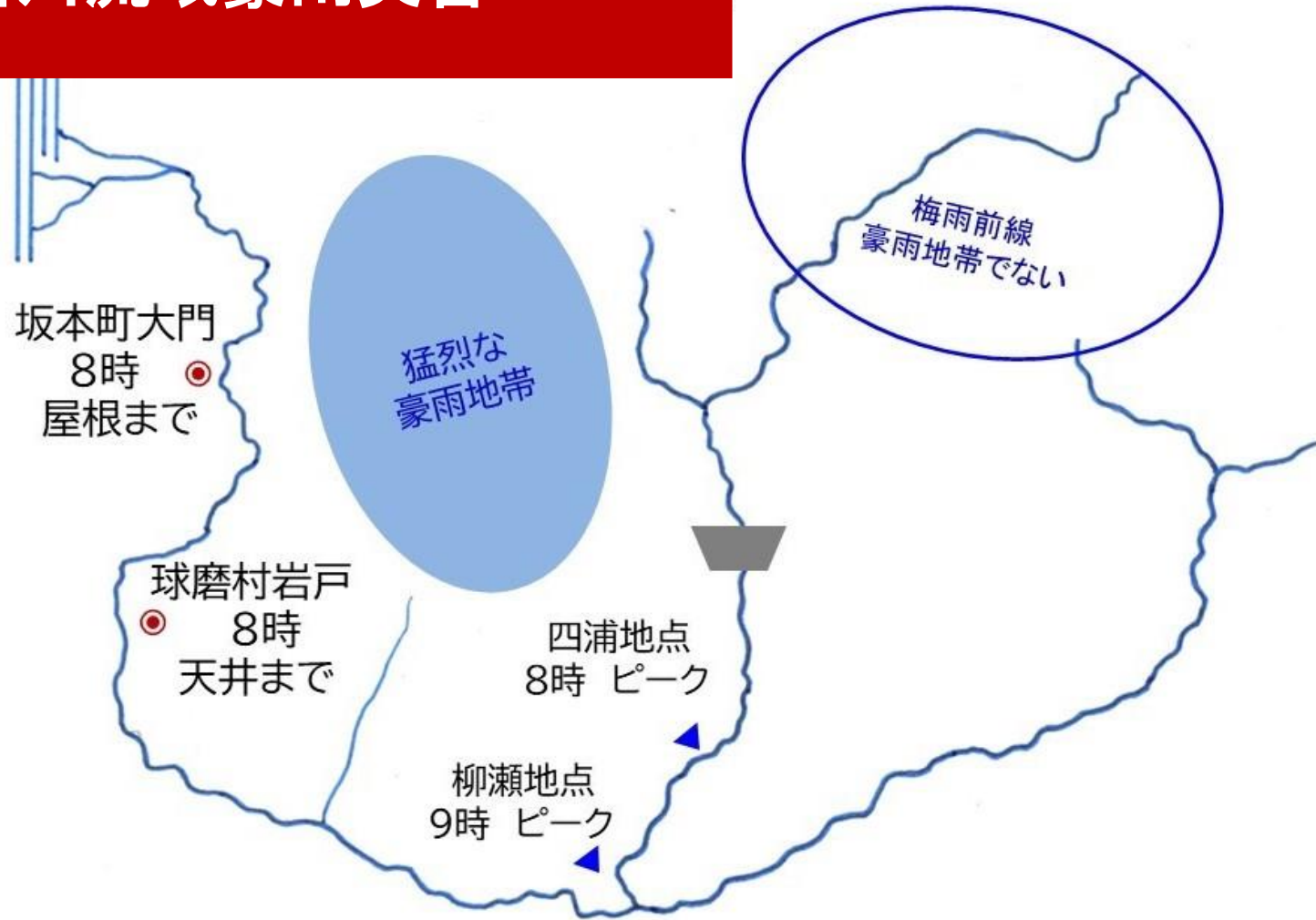


2020年7月4日球磨川水系流域の1時間雨量

町村名	河川名	観測所	1時	2時	3時	4時	5時	6時	7時	8時	9時	9時間雨量
球磨村	川内川	神瀬	29	51	59	78	72	62	73	35	6	465
球磨村	小川	大槻	29	39	65	74	73	52	67	30	5	434
八代市	川辺川	開持	1	24	27	44	28	24	34	6	11	199
五木村	川辺川	宮園	2	33	38	62	42	45	44	9	9	284
多良木町	球磨川	多良木	24	71	33	21	55	28	57	58	31	378
湯前町	仁原川	湯前	23	71	36	23	48	31	56	51	30	369

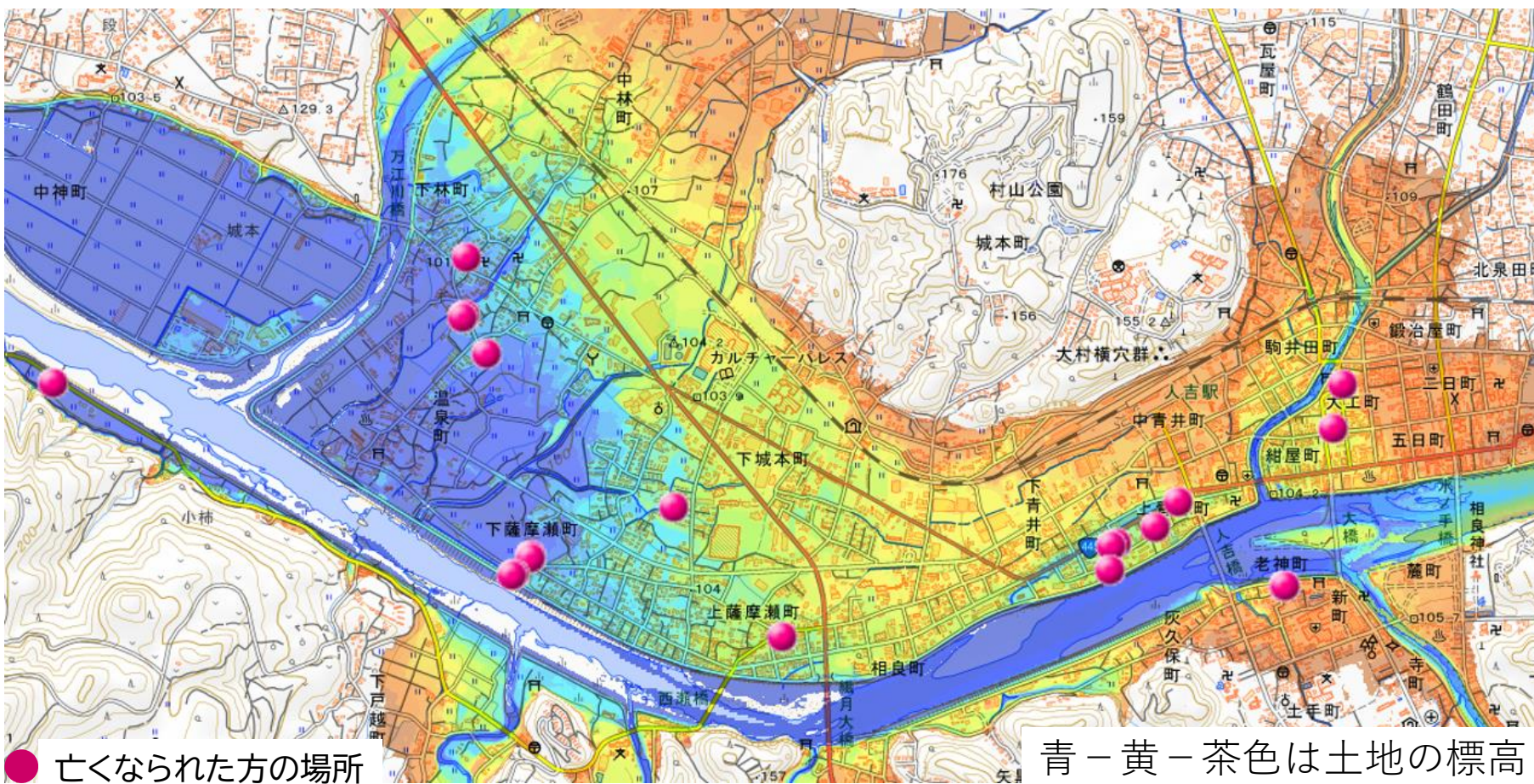
# 川辺川ダムでは全く対応できない 球磨川流域豪雨災害

ピークでは  
なく  
命が危険  
に晒され  
る時刻が  
重要



# 基本高水治水の矛盾が露呈 球磨川がまだ氾濫しない前に発生した大惨事

山田川・万江川の氾濫と微地形が引き起こした氾濫水の流れが大惨事の要因  
国・県はバックウォーター説で亡くなられた方たちは川辺川ダムで救えたと宣伝



いま一番深刻な問題 川辺川ダム依存のまちづくり・村づくりを強行していること 三度災害を呼び込むため？

# 第四章 川辺川ダム建設のために2020年の豪雨災害は 対象外にした河川整備計画

～ 1972年胸川流域の山腹崩壊を起こした時の雨量を基にして  
1966年に計画した川辺川ダムを引き継いだ ～

**1/200-1/150-1/100-1/80 → 計画の規模 1/80 で日本一大きい治水ダムを計画**



2020年7月4日 人吉市の大橋  
ここに危機管理型水位計を設置

どんな事実を無視したか

- 2020年の災害の視点で捉えた気候変動による雨の降り方の特長 局所集中豪雨
- 2020年激甚な災害に遭った人吉市街地に流れ込んできた二つの洪水
- 2020年気候変動による猛烈な集中豪雨が降った球磨村渡の災害  
小川の氾濫や堤防決壊5時、鉄橋7時30分流失  
あらゆる地水対策がマイナス効果

どんな事象を捏造したか

- 川辺川柳瀬地点のピーク流量 3400m<sup>3</sup>/s  
川辺川ダムに数値合わせ
- 計測不能に陥った大橋に設置した危機管理型水位計を利用して合流点で発生した大洪水を否定。

# 2020年球磨川流域豪雨災害を特徴づける二つの氾濫水

早い時刻に 多くの人命を奪った氾濫水は  
どこから来て どんな流れ方ををしたのか

九時過ぎ 人吉市街地に流れ込んできた  
大洪水はどこから来たのか



球磨川は氾濫していない7時過ぎ



9時過ぎ大洪水が市街地に流れ込んできた

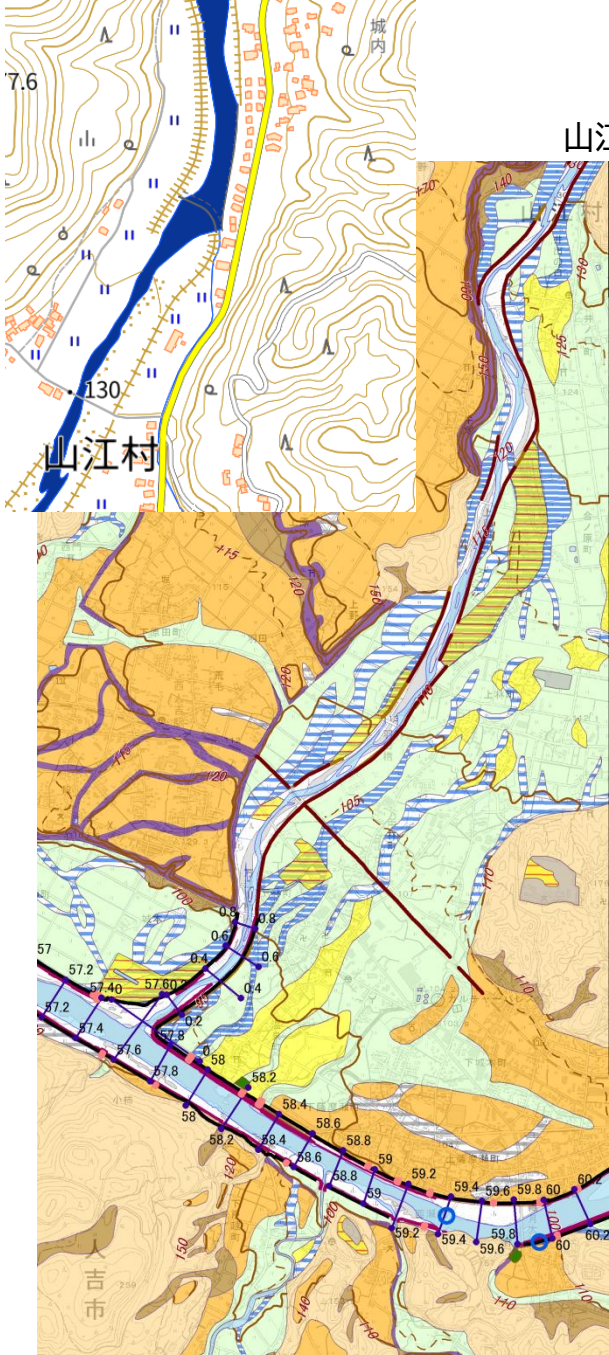
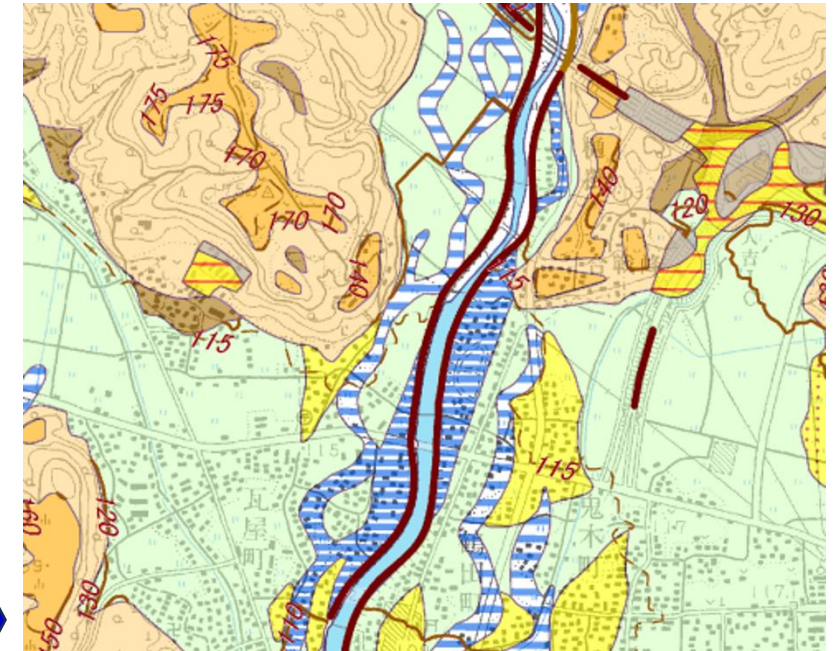
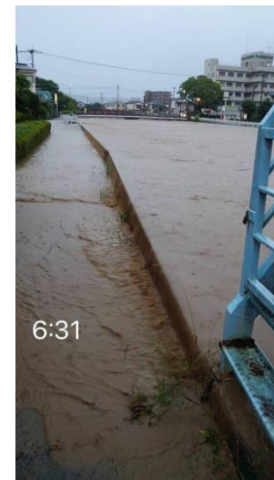
# 調査もせず、バックウォーター現象あいき 川辺川ダムあいき

山江村

万江川



山田川



# バックウォーターの論理

本川の水位が上昇するため支流の流れは逆流を起こして氾濫します

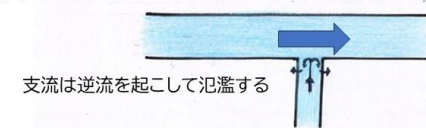
**↓ 川はこの論理を否定しています**

本流の水位が上昇するのは増水した支流の洪水がどんどん流れ込むからである



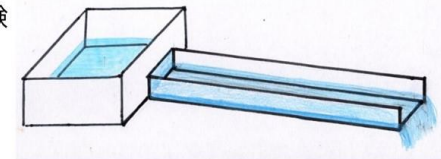
## 国交省のモデル授業

導入 バックウォーターについての説明



いまの治水工学  
川を見ない  
災害も見ない  
国交省の本音

実験



水を入れたボトル  
で塞ぎ、流れを止  
めます  
水は逆流を起こし  
て貯まります  
これが  
バックウォーター  
と言います

まとめ

山田川も万江川も馬氷川のバックウォーターで氾濫した

# 河川整備計画と豪雨災害の決定的な矛盾

人吉市街地に流れ込んで来た球磨川からの大洪水は合流点で発生したものの  
河川整備計画は川辺川に大雨が降り、大洪水が発生したことを前提にしている

事実を無視して  
事実を改ざんして  
つくり上げた  
河川整備計画



市街地へ流れ込んだ球磨川の大洪水は合流点  
に設置されていた鉄橋が流木でダム化し流域  
に大氾濫を起こしたが、鉄橋崩壊で氾濫水が  
一気に球磨川に流れ込んだためである



氾濫水が激しく球磨川  
に流れ込んだ痕跡



水田も球磨川と化した  
大洪水が市街地へ



9時過ぎ大洪水が  
市街地へ流れ込む

- 人命を奪った集中豪雨は中流域の山地であり、川辺川流域ではない
- 120名の死者の捏造 亡くなられた方たちは流域の微地形で発生した急激な増水と激しい流れ
- 2020年7月4日球磨川で発生した特殊な災害と洪水を抹殺し、川辺川の大洪水を捏造
- 胸川の山地で災害がした昭和47年の雨量で川辺川ダム建設に必要な数値合わせ



# 柳瀬地点のピーク流量3400m<sup>3</sup>/sは川辺川ダム建設に必要な数値

国交省はこの洪水は川辺川上流に大雨が降って大洪水が発生したからと説明

↓ ところが ↓ 自然は国交省のイカサマを教えてくれた

2020年梅雨前線と2022年台風の時の洪水のピーク時刻と水位の違い

	宮 園	四 浦	柳 瀬
2020年7月04日	7時 3, 37m	8時 10, 05m	9時 8, 07m
2022年9月19日	2時 4, 64m	3時 9, 95m	3時 6, 74m

2020年7月4日、柳瀬地点で大洪水が発生したのは川辺川両流域で大雨が降ったからという説明はウソ



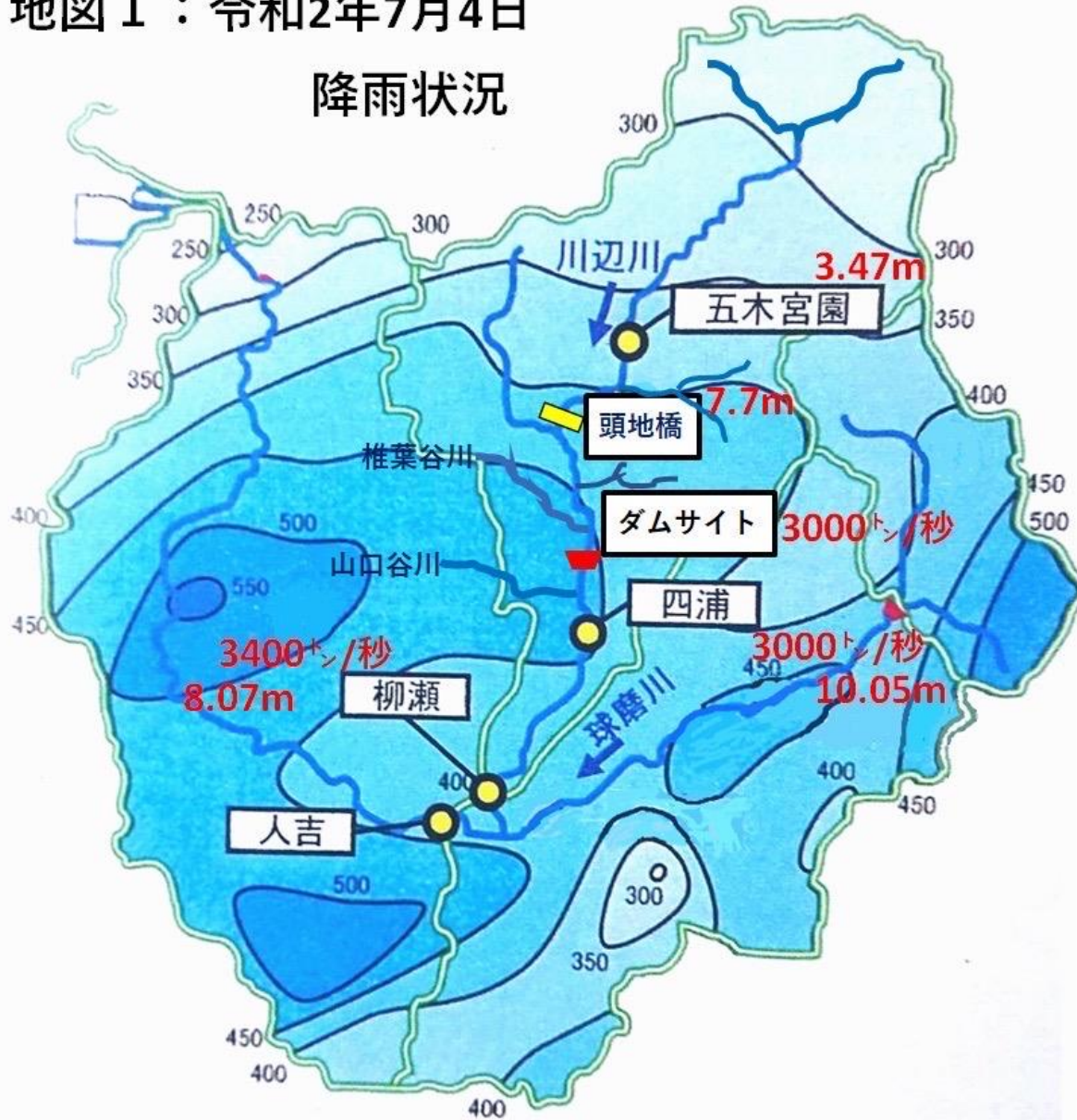
2020年7月4日も藤田の吊橋には流木一本架かることもなく3299m<sup>3</sup>/sの大洪水は流れていなかった



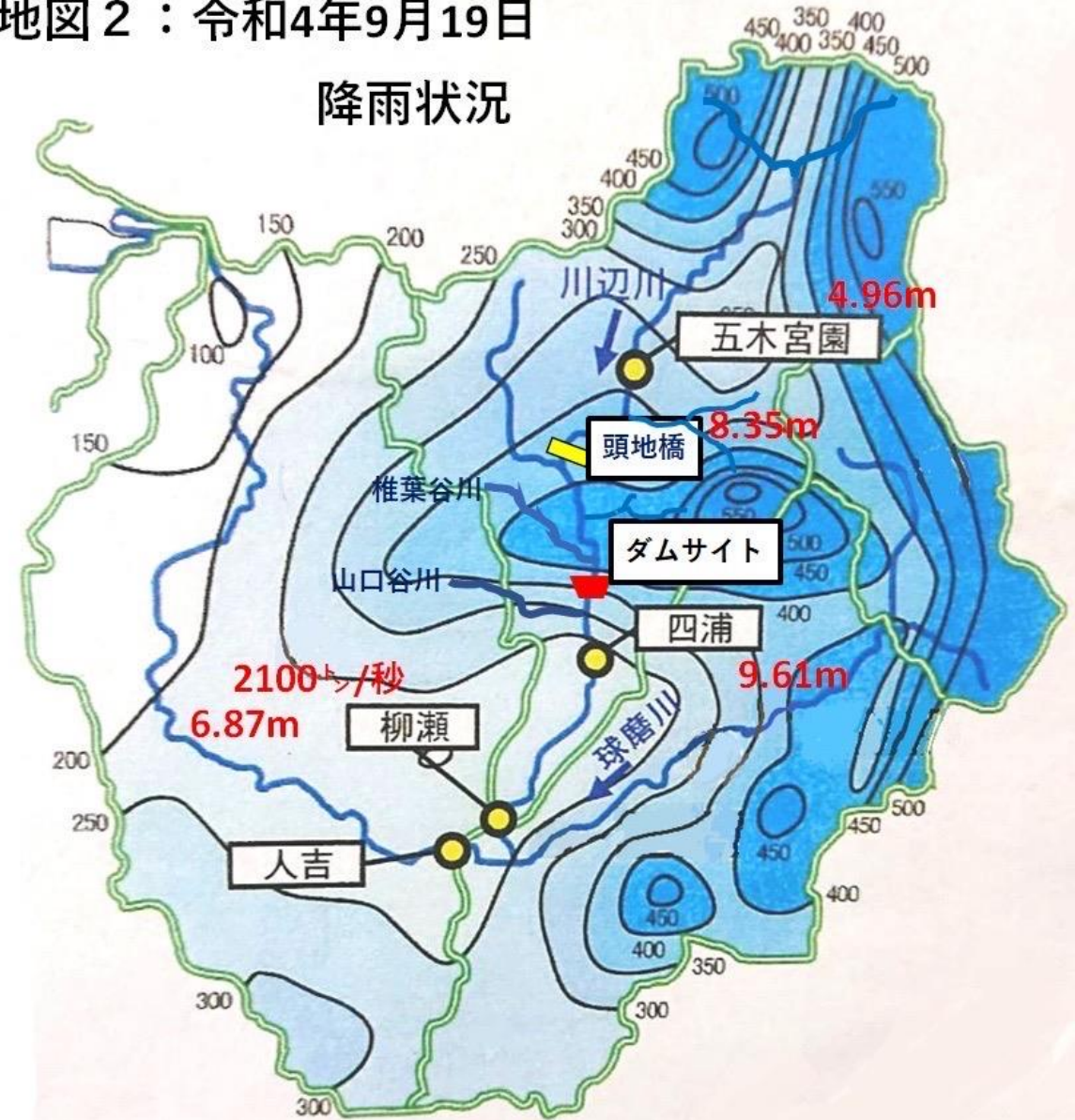
2022年台風の時の頭地橋の様子



地図1：令和2年7月4日  
降雨状況

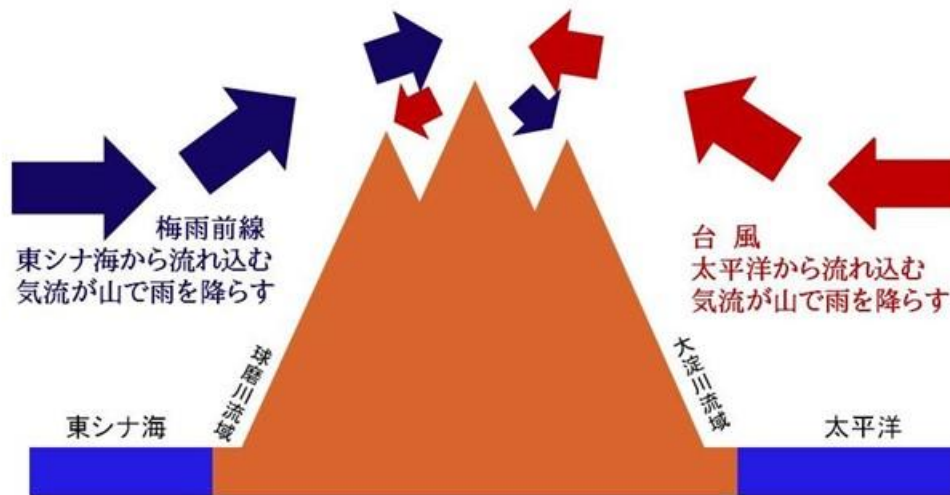


地図2：令和4年9月19日  
降雨状況



# 球磨川流域における雨の降り方や洪水の発生の方と基本高水治水の矛盾

## 球磨川流域における梅雨と台風の雨の降り方



九州においては東西で梅雨前線と台風の雨の降り方も洪水の発生の方と大きく異なっている

2022年の台風14号の雨により、川辺川の上流中流域に大きな洪水が発生し、球磨川では市房ダムが緊急放流を行ったでも、この時、人吉市を流れる球磨川には大きな洪水は発生しなかった

この事実は川辺川ダムによる治水は不要であることを示唆してくれている

2020年7月4日 球磨川流域に降った集中豪雨

市町村	河川名	観測地点	1時	2時	3時	4時	5時	6時	7時	8時	9時	9時降雨量
坂本町	百済米川	川岳	10	19	55	72	34	58	40	13	3	304
芦北町	天月川	大野	34	54	38	48	79	32	63	45	8	401
球磨村	川内川	神瀬	29	51	59	78	72	62	73	35	6	465
	芋川	岳本	27	52	40	31	74	11	42	44	14	335
	那良川	三ヶ浦	23	64	37	22	51	7	26	60	24	314
	鶴川	球磨	27	58	40	21	68	8	31	47	14	314
	小川	大槻	29	39	65	74	73	52	67	欠測	欠測	※399
山江村	万江川	大川内	21	36	62	65	61	66	59	欠測	欠測	※370
人吉市	胸川	砂防人吉	24	61	15	3	34	26	42	100	62	367
	鳩胸川	大畑	33	26	21	13	32	25	14	77	59	300
あさぎり町	田頭川	深田	26	74	27	13	40	24	44	54	36	338
	阿蘇川	須惠	27	51	42	22	56	12	22	50	17	299
多良木町	柳橋川	城山	19	62	26	6	36	35	45	54	44	327
	小権川	黒肥地	21	44	48	28	45	18	26	41	19	290
湯前町	仁原川	湯前	23	71	36	23	48	31	56	51	30	369

2022年9月18日(上段)19日(下段)の時間雨量

観測地点	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
八代	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3	5	1	3	9	11	5	2	5	7	7	8	16	11
八代東	4	3	1	0	0	0	1	1	0	0	1	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
神楽	0	2	0	1	0	0	0	0	1	2	7	14	6	9	11	15	5	5	6	8	14	25	10	10
球磨村	2	1	0	0	0	1	1	2	2	2	2	5	8	12	1	7	1	1	1	1	1	0	0	0
大川内	2	6	2	0	6	1	2	8	6	3	8	15	4	10	7	11	6	4	9	10	14	10	11	10
山江村	26	4	2	3	2	2	4	6	6	7	15	23	24	19	5	16	9	5	5	0	0	1	2	0
人吉	1	0	0	1	0	1	0	1	0	4	7	7	4	15	12	14	9	10	13	13	11	23	14	20
人吉西	14	3	1	0	0	1	0	0	5	2	4	8	6	5	1	3	1	0	0	0	0	0	0	0
多良木	2	1	1	3	2	2	2	4	3	14	14	21	11	20	16	20	19	16	17	23	20	29	16	27
多良木町	4	1	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
湯前			24	28	33	15	28	31	26	22	29	42	32	43	欠	欠	27	29	25	20	32	32	48	33
水上村																								
球磨	6	6	5	5	12	5	6	14	5	4	9	14	5	12	7	7	5	7	10	9	11	15	14	14
相良村	49	25	6	2	4	4	6	5	19	8	20	14	11	11	6	7	5	3	1	0	1	0	0	1
出る町	0	4	1	1	4	2	1	1	0	2	6	10	2	7	10	12	5	3	7	7	9	15	15	20
五木村	26	9	1	2	1	1	5	3	9	6	29	25	17	15	9	12	6	6	2	0	1	1	1	1
観音	4	5	8	9	15	11	4	8	7	10	16	19	10	23	18	20	14	14	20	18	14	16	26	16
五木村	10	11	17	5	5	4	4	5	12	13	9	6	4	8	4	8	6	4	1	1	0	1	0	1
関所	6	4	2	4	7	4	3	5	6	15	22	18	17	16	28	31	41	33	21	31	34	31	55	
八代市東	23	17	7	3	2	0	0	2	6	12	11	12	14	14	9	7	6	4	5	3	1	1	1	1

## 第五章 私たちの提案

～ 災害を河川法の中に閉じ込め、流域治水の下  
川辺川ダムをこり押しする法体制を問い直す ～



1/80で  
日本一大きい  
治水専用ダム

ダムの上流側にも下流側にも堆砂が  
進行し、濁流が長期間流れ続ける



森林経営管理法の下で

雨-大地-森-川は  
自然が作り上げた  
水循環の形態  
この自然の営みを  
破壊すること  
によって災害は激化し  
続けている

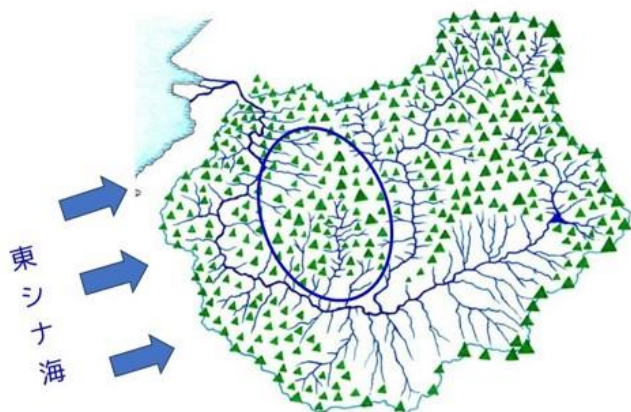
**山河の開発で災害は激化の一途を辿っている**

# 豪雨災害は水圏の循環の中で起きている

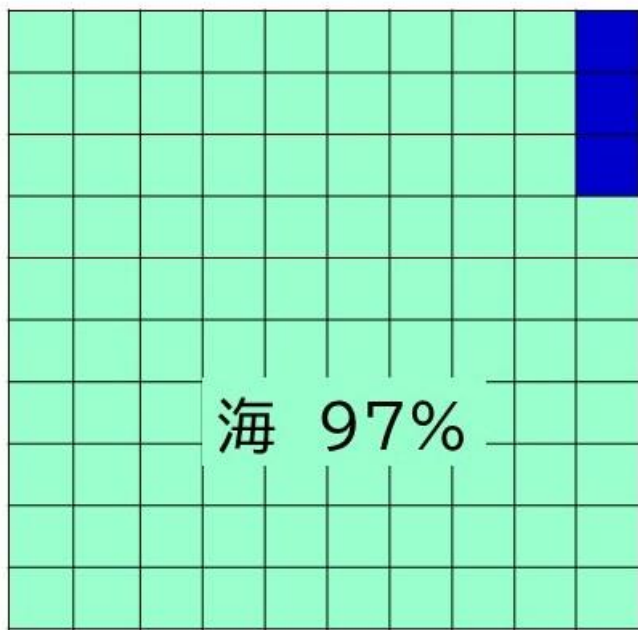
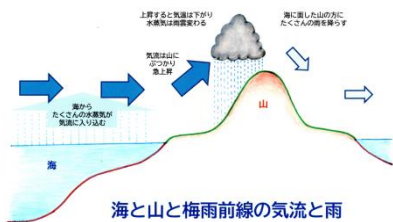
## 治水ありきで気候変動による豪雨災害は防御出来ない

地球における水の存在形態 岩石を造っている水は省く 地球の水はどこから

中流域の山地が猛烈な集中豪雨の降る地帯



東シナ海で多量の水蒸気を受け取った大気が流れ込んでくる



海 97%

陸と大気  
3%

海と陸  
表面積の割合  
7:3

氷河・氷床	68,7%
地下水	30,1%
地表水	
湖沼	0,294%
川	0,006%
大気	0,9%

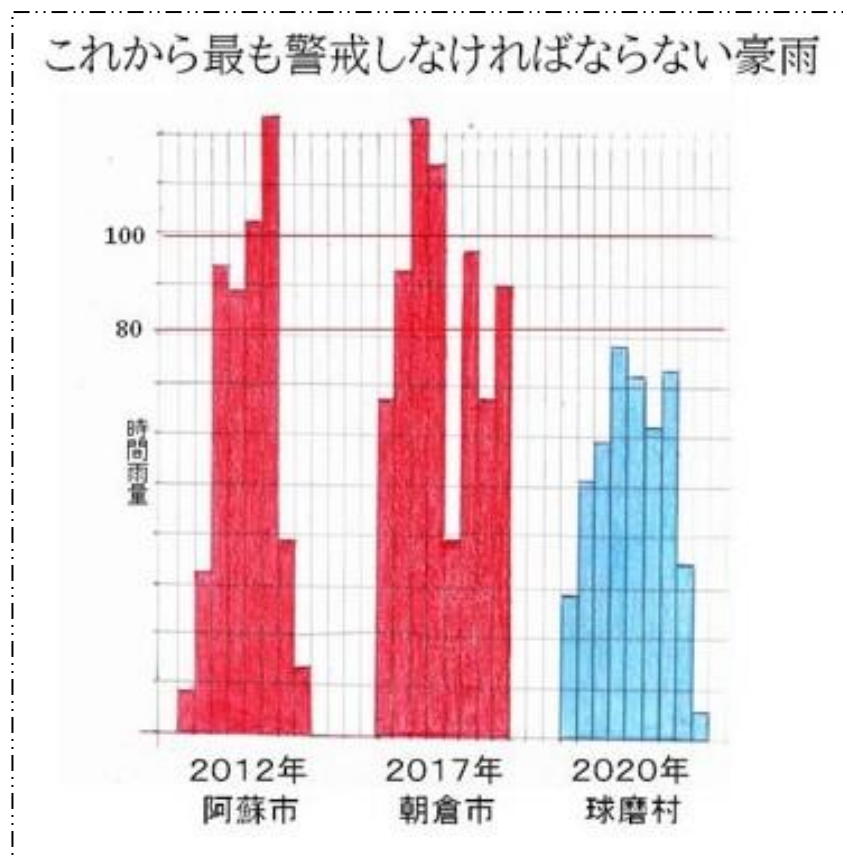
地表水の2%が川の水

### ◆ 川の働きは絶大 ◆

- 陸の地形をつくる 大地を削り、大地をつくる
- 生態系の構成要素であり、川自体も生態系として存在している

# 気候変動がもたらした九州の局所集中豪雨からの警鐘

災害を基本高水治水に閉じ込める河川法を破棄し、命と暮らしを守る水圏法をつくれ!!



災害は基本高水治水で防御出来るとする河川法の下に開発された流域づくりは激甚な災害に見舞われた。この一番重大な問題を無視し、河川法を振りかざして再び基本高水治水を押し付けている。

◆ 現在の主要な激甚な豪雨災害 ◆  
気候変動がもたらす局所集中豪雨災害である

基本高水治水で災害は防止できるとする河川法の下で、災害は激化の一途を辿っている  
この現実を踏まえ

温暖化による気候変動がもたらす豪雨災害は水圏の問題として認識し、山河を守り、流域  
住民の命と暮らしを守るためにはどんな課題に取り組まなければならないかに関する議論  
が必要ではないかと私たちは考えるようになった。また、この議論を深めていく上でも川辺  
川ダム問題は重要な役割を果たしてくれるものと思っている

川辺川ダム問題はいつでも いまが始まりです  
住民の力でさらに大きく進展していくことでしょう



## ダムの功罪 大熊孝

川を地球の物質循環の一過程と認識すると  
ダムという存在は川を横断してその循環を  
遮断する以外のなにものでもない

手渡す会発足の年の「話の特集8」に記載された論文  
同じ号に編集部編で「清流を未来に」という題目で  
手渡す会が紹介されている 1993年

ウソとダマシで始まった多目的川辺川ダムは  
**白紙撤回** に追い込みました

ウソとダマシで始まった治水川辺川ダムも  
**白紙撤回** に追い込みましょう

**ありがとうございました**